

第3回八戸市水産物ブランド戦略会議（R3.5.23） 議事録

- 1 日 時 令和3年5月23日（日）午前11時00分
- 2 場 所 八戸パークホテル 2階 「アジュール」
- 3 出席者 (委員)
- 佐々木 伸夫 八田 恭章 高野 豊 松崎 雅樹
- 丸島 宏介

(オブザーバー)

飯塚 麻里絵 (イオン東北)

(事務局)

上村農林水産部長 茨島水産事務所長 高館水産事務所副所長

河原木副参事 秋山主査

司会	定刻となりましたので、只今より第3回八戸市水産物ブランド戦略会議を開会いたします。
----	---

司会	<p>それでは会議に入ります前に、出席委員について御報告いたします。</p> <p>委員総数6名のうち、本日の出席委員は5名でありますので、八戸市水産物ブランド戦略会議規則第5条第2項規定により、本日の会議は成立しておりますことを御報告いたします。</p> <p>また、本日は当会議のオブザーバーとして、〇〇の〇〇様に御出席いただいております。</p> <p>それでは、これより議事に入ります。</p> <p>会議の議長は、規則により、座長が務めると定めておりますので、〇〇座長よろしくお願いたします。</p>
----	---

座長	<p>はい、皆さん本日もよろしくお願ひします。それでは、さっそく議事に入りたいと思います。</p> <p>本日の議題は、「補助金制度とブランド認証制度の概要について」、「商品開発を行う加工業者への補助金制度について」、「ブランド認証制度について」という3議題でございます。こちらについて事務局より御説明をお願いします。</p>
----	---

事務局	<p>それでは本日の議題となっております「補助金制度とブランド認証制度の概要について」、「商品開発を行う加工業者への補助金制度について」、「ブランド認証制度について」のこの3つの議題を一括で御説明させていただきたいと思ひます。</p> <p>まず、(1) 補助金制度とブランド認証制度の概要について、資料の別紙1を御覧いただけますでしょうか。別紙1は制度の概要について記したものになります。今回ブランド戦略会議のテーマとして「八戸港産サバ加工品」という物を考えております。前回までの戦略会議においては、例えばワインに合うサバの加工品であるとか、あるいはアルコール飲料に合うようなサバの加工品という事をテーマとして具体的に掲げておりましたが、前回の会議等々を色々こちらの方でも考えまして、これから出てきます補助金の制度をなるべく広く活用して新しい加工品の開発に繋げていただきたく、アルコール飲料に合うという部分に拘らず、加工品の開発を支援していこうと考えを変えております。事業の対象者としましては、水産加工業者や漁業協同組合などを想定しております。事業の内容については、八戸産の水産物をもって水産加工品を開発する費用の一部を補助するものになります。具体的には八戸港で水揚げされたサバを使用した加工品、サバの使用割合としては50%以上であることを要件にしたいと考えております。補助対象の経費については、試作品原料、外部委託加工賃などの試作品製造費、試作品を製造するための専門家への謝礼・あるいは旅費などのアドバイザーを招聘するための経費、あるいはパッケージのデザイン費、その加工品を製造するにあたっての市場調査のための経費、こういったものを補助の対象経費としたいと考えております。補助対象経費の1/2を補助したいと考えておりまして、上限を1件あたり75万円と考えております。今年度当市で予算を計上しておりまして、予算は3件分の225万円を計上しております。補助事業の認定につきまして</p>
-----	---

は、将来性のある加工品試作事業となっているか、原料の衛生管理度合についても、審査あるいは評価の対象と考えております。

続きまして、別紙1の裏面の方を御覧いただければと思います。裏面は八戸市水産物ブランド認証制度の概要についてとなっております。このブランド認証制度については加工品をブランド化していくというテーマがありますので、前の方で説明しました試作品製造事業で試作された加工品を認定していくと想定しておりますけど、認定につきましては、戦略会議の皆さまに評価をしていただきまして、それを八戸市長が認定し、認定書を交付したいと考えております。そして認証した加工品について、市HPで公表し情報発信をします。その評価にあたっての審査基準につきましては、味、斬新性、見た目、簡便性、素材、原料の衛生管理について、こういったものを評価の基準にしたいと考えております。審査の際には、製造されました見本を委員の皆さまに試食していただき、評価をいただきたいと考えております。事業のスケジュールについてですが、もし今回の戦略会議の中で制度について御了承をいただければ、さっそく6月から試作品事業の公募を開始し、7月下旬のあたりに再び戦略会議を開催いたしまして、その中で審議していただき、10月から12月の間の事業完了と認証審査という流れを想定しております。補助金制度、ブランド認証制度の概要については以上ですが、少し詳しいお話を続けさせていただきます。

資料の別紙の2から別紙の3の2について一括で御説明させていただきます。別紙2-1についてですが試作品製造支援事業補助金の交付要領（案）になります。ブランド戦略会議の役割について交付要領の中の、第5第1項に記載されておりますが、市長は戦略会議に意見を聴くことができるものとするとしておりますので、この規定によりブランド戦略会議の皆さまに意見を聞くという事になります。具体的にどういったものについて皆さまに審査評価していただくかというものが別紙2-2、こちらを御覧いただければと思います。こちらが水産物加工試作品製造支援事業補助金調査票となっております。この調査票には、補助金の申請をしていただく事業者の方から原料について、商品の特徴などについて申請していただければと考えております。一番下の部分に商品の特徴あるいは、提供方法であるとか、PRポイントと書いていますがこちらには、例えば今までいろいろお話してまいりました日本酒と合うや、ワインに合うなど書いていただけ

ると色々審査の評価のポイントとなるのではないかと考えておまして、例えばレンジで温めるだけで手軽に食べることができるというような、簡便性などをPRのポイントとして謳っていただければと考えております。原料の部分に関して言いますと、例えば使うサバがEUに輸出できる登録船ですとか、八戸市のEU輸出の認定を持っている荷捌き所A棟で水揚げされたなどそういう部分をPRポイントで記載していただければありがたいなと考えております。選考につきましては、別紙3-1を御覧いただければと思います。補助金の選考にあたって、選考要領というものに従って選考をしていく訳ですが、市の補助金であるという事も鑑みましてブランド戦略会議の委員の皆さまに加えて、当市の農林水産部長、水産事務所長も加えさせていただきたいと考えております。評価項目でございますが、補助金の申請段階においては加工品の見本、本物がございませんので、そういった中評価をつけていただくこととなりますので、別紙3-2を御覧いただければと思いますが、具体的に評価項目として将来性のある加工品試作事業になっているかということで、斬新性、見た目、簡便性、素材等々を含めて配点を20点満点とし、この中で、不十分であるとか、やや不十分であるとか、普通、優れている、非常優れているというあたりを委員の皆さまに採点していただきます。さらに評価の項目として2番とか3番とかというのはある程度自動的に申請の内容に基づいて、それから加工場の衛生管理レベルもオートマチックに申請の内容に基づいて採点されていくという部分があって合計で30点満点。その中で15点以上を事業認定したいと考えております。満点の中の半分以上は補助金を受けるにあたって取っていただきたいと考えております。さらに別紙3-2の評価票の中には大きい項目の4として委員による評価、指導、助言という部分も設けさせていただきました。委員の皆さまから様々加工品の事業計画の申請書を見ていただいたときに、こういったものを行った方がいいのではないかなどの指導書になればと、そういったものも申請者の方々にお伝えできるのではないかと考えて設けた項目になります。

続きまして、(3)ブランド認証制度について具体的な御説明をさせていただきたいと思っております。別紙4-1から別紙5-2になります。別紙4-1がブランド認証制度実施要領(案)になります。色々制度化されたものが文言になっておりますが、「八戸市水産物ブランド」認証、名称に関しては英語表記もという所もあ

りまして、ハチノヘ シティ マリーン プロダクツ ブランド サータァフィケイションHachinohe City Marine Products Brand Certificationとつけさせて
いただいております。別紙4-1が実施要領の第5の最初の所になりますが、八
戸市水産物ブランド戦略会議の役割が記されておりました、市長は、八戸市水産
物ブランド調査票を八戸市水産物戦略委員会に提出し、八戸市水産物ブランドと
しての認証の可否について戦略会議の審査に付するものとするのとありますので、
こちらの規定により調査票が上がってきたものに関して認証の決定について皆
さまに戦略会議で審査していただこうと考えております。さらに前回までの会議
でお話が出ておりましたとおり、委員だけ決定するのはいかなものかという話
があった場合に備えて第5の4戦略会議は、必要と認めるときは、委員以外の者
の出席を求め、意見を聴くことができるものとするとして、ある程度意見を聴く
ことができる方の幅を設けさせていただいております。

続きまして別紙4-2をご覧くださいませでしょうか。別紙4-2は実際に事業
者さん等々から上がってくる八戸市水産物ブランド認証に関する調査票となり
ます。認証にあたっては補助金と違いまして現実の試作品・見本が出て参ります
ので当然、試食という事が可能になりますので実際に味を皆さんに確認して
いただいで評価をしていただくということになります。実際にどういった内容に基づ
いて審査をしていくかという要領が、資料別紙5-1になります。別紙5-1の第
2に審査項目が色々と並んでおりますが、味、斬新性、見た目、簡便性、素材、
漁船、水揚場所、加工場の衛生管理のレベルになっております。続きまして別紙
5-2ですが具体的な評価票で委員の皆さまに採点していただく項目になりま
す。こちらの評価票、補助金の評価票とかなり似通ったものになりますが、一番
大きな違いは先に申し上げた通り本物が出てきますので味を確認できるという
事になっておりました、全体で50点満点の配点、そのうち当然加工品ですので
味の配点が一番高い20点となっております。全体の40%が味の配点となっ
ております。その他斬新性、見た目、簡便性、素材あと6番から8番漁船・水揚場所・
加工場に関する衛生管理レベルが自動的に配点されて50点満点での評価とな
ります。

認証されたものに関しては、未来永劫認証はなかなか難しい所があるので有効
期限を設けまして、認証決定の日から3年とさせていただきたいと考えておりま

	<p>す。更に申請の3年後により更新を認めることとします。あるいは実際の加工品が基準に適合しなくなった時、あるいはあまり考えたくはありませんが虚偽の申請をした時、その他法律的倫理的課題が発生した時に、認定を取り消さなければならない時に認定を取り消すことができる規定を設けさせていただきたいと考えております。全体で50点満点の配点の中で25点以上を獲得された事業者に関して認証をさせていただきたいと考えております。補助金と同じように半分以上となります。</p> <p>以上、3つの議題について一括で御説明をさせていただきました。本日説明したものがあくまで案としておりましたので、本日の会議の中で委員の皆さまから様々な御発言等々を受けた中で、制度を再度調整しまして早ければお話しした通り6月から補助事業の公募を開始させていただきたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。説明は以上になります。</p>
--	---

座長	<p>はい、ありがとうございます。前回までの八戸ワイン・日本酒というお話もありましたが、その一つ的前提を1回外すという所でこのシステムというか組み立てられると思いますが、その辺も含めて委員の皆さまから御意見をいただて参りたいと思います。まずは〇〇委員からお願いできますか。</p>
----	--

〇〇委員	<p>前回の会議で、ワインとか日本酒とかに合わせた方がいいということがありましたけれども、今回それを外して加工品だけを対象となったようですけども、それはそれでいいと思います。この案の資料を見ていまして大変よくできているなと思いました。このままこれを進めていけばいいのかなと思います。以上です。</p>
------	--

座長	<p>はい、ありがとうございます。それでは〇〇委員お願いできますか。</p>
----	--

〇〇委員	<p>なかなかよくできた制度だと思います。今全部拝見させていただきました中で2点ほど提案したいことがありまして、まず買っていただかないと制度的に意味が無いので買う方が、マークが付いているものとマークがついていないものと、どこが違うのという話になる。やはり買っている方が瞬間にこれあの認証だよねと分かるようなものをつけていただいたほうが売っている方も買っている消費</p>
------	---

	<p>者の方も嬉しいと思います。この間、愛媛の鯛とワインの販売をするような店頭 の企画がありまして、やはりその時にプロモーションビデオがどうしても必要で す。今すでに見学に行きますと流れているビデオがありますが、あれを多少加工 していただいて魚売り場の店頭で流せるようにできればいいのではないかと。八戸 がどこにあるか知らない方も多いため、八戸の歴史から入ってこんな素晴らしい 所で、A棟で選ばれたサバなのだという事を買う方に分かるようにできるビデオ があればいいのではないかと。あとはそのビデオで今後将来的にはそこに各国の言 葉をつけるという想定で、当面日本語の説明でもいいのですが英文あるいはスペイ ン語等の紹介、あるいはテロップを入れる方法でも構わないです。できれば市の 広報の方の予算で配慮していただければと思います。以上です。</p>
--	--

座長	はい、続いて〇〇委員をお願いします。
----	--------------------

〇〇委員	<p>私は今、A棟のサバ缶を海外に出す事業をしています。この資料を読ませてい ただいて感じたことは、おそらく100%フォーカスが日本市場マーケットだと思 うのです。今回非常に感じたのは暑い国だったら、例えば塩分高めではないとい けないとか本当に違いがあって。メイドインジャパンは価値が高くブランド性 があるのであまり価格は聞かれません。その中で非常に感じているのは味覚視 覚が全く別なのです。今ロシアの事業で日本酒でしたりお米を使ったウオッカ・ジ ンを手掛けている。そういう物で価格を聞かれたことがあまりない。日本の人が おいしいという物に関して、例えば東南アジアの人がどう感じるかという、全 く違う感想が返ってきました。なので、委員のメンバーに入れるという事ではな くて、〇〇さんがズームで参加していますが、今いろんなものが先進化されて きています。サンプルさえ送れば数千円で済むので、ライブで色々な方に来て もらって実際どう感じるのかと聞いてみる。今加工物は特にそうなのですが、生 鮮という物は今空輸そういうものが一切止まっているロックダウンな国が多い ので、海外を巻き込むという意味では一番いいと思います。国内よりはるかに卸 値でしたり、おそらく生産者メーカーでは優位性はあると思うのです。例えば私 の妻がシンガポール人なのですが、シンガポールに行った場合は私がビジネスビ ザで入ったとしても3週間会えません。完全隔離。その時に何が配られるかとい</p>
------	--

	<p>うとなぜか日本のメイドインジャパンの加工物が結構好まれる。それはおそらく今ホテル側にとっても非常にアフターコロナに集客をフォーカスしている。シンガポールの国自体、補助金がいっぱい出るからだと思うのですが、そういう補助金を使って実際海外のホテルやレジャーの当局は日本のメイドインジャパンの物、特に加工物を押しているという部分もありました。なので、今回A棟のサバ缶もそうですけど、そういうところも含めながらやっている中で向こうの人に感想を出してもらったら、例えばこれってトマトでマリネにした方がいいよねとか、シンガポールだとココナッツですね。そういった斬新的なものがあってもいいのではないかという中で、国内だけにフォーカスしていると、おそらく海外のチャンネルは皆無になります。お金のかからない方法はいっぱいあるので、ズームで繋げて各支所も含んでもいいだろうし例えばロシアとか西洋の方とかをズームで巻き込んでサンプルを食べてもらって実際どうなのと生の声を聞いて、先進的なライブの会議をしてもいいかなと思っています。以上です。</p>
--	--

座長	<p>はい、ありがとうございます。それで本日オンラインで御参加いただいております〇〇委員お願いします。</p>
----	---

〇〇委員	<p>はい、よろしくお願いします。先程御説明いただきまして、本当によくできた認証制度だと思いました。1点だけちょっと見ていて気になったのは、今回八戸市水産物ブランド認証という事でブランドという言葉ってけっこう凄いことだと思います。例えば宝石でも、いろんなブランド物のバッグですとかそういう物もあると思いますが、その中で評価の所なのですが、25点以上の加工品を八戸市水産物ブランド認証として認定するというのはなんか少し評価が低すぎるのではないかと思います。結局25点って半分でいい訳なので味→普通、斬新性→普通、見た目→普通、簡便性・素材、それで25点いってしまうのだと思います。普通のレベルでブランド認証してしまった時にそれが果たして商品化した時に僕らが味見をして評価したものの中で普通だったなというのがブランドとして出てしまうというのが、どうなのだろうなという気がしました。なので、例えばもう少し優れているとか非常に優れているという配点区分に、もうちょっと高い評価が集中したものを八戸市の水産物ブランドとして、間違いありません</p>
------	--

よという感じでやった方が僕らも間違いないと思えますし、皆さんが非常に優れていると思った物であれば受けもいいのではないかと、お墨付きとかそんな感じになった方がいいのではないかと思います。以上です。

座長

はい、ありがとうございます。私からは、八戸ワインが消えたことと製造支援事業補助金どちらもですが、特に製造支援事業補助金で八戸ワイン、お酒なりの基準が消えたという事で非常にハードルが上がったなという感じがしております。今までであればワインなりお酒なりに合うという事であれば既存の例えばシメサバの味付けを変えるとか缶詰の味付けを変えることで済んでいたものが全く新しいものを斬新なものを出さなければ対象にならないという所では非常にハードルを上げたなという所がある。もちろん市税をそこにつぎ込む訳ですから、やはりそういった困難さというものは企業に感じていただきたい所もありますので、その分にとってはよろしいのではないかなと思います。ただ出てくる件数が確実に減るのではないかとちょっと心配はしております。それから対象者、支援事業者の対象者で水産加工業者、漁業協同組合となっておりますが最近では料亭さんとか、そういう所でも独自にサバの料理商品を出しているところもあって、そういった所は完全に除くという事でよろしいのかどうか質問ですね。後でいいです。まとめて今言っています。それから事業の認定で認証制度実施要領(2) 既存商品ではない事という所、これが自社での既存商品ではないのか、それとも市場の中での既存商品ではないのかここを明確にしていきたいという事。それから先ほど水産加工試作品製造支援事業の部分で採点表の中で、30点満点で15点以上取ればいいという所に対して2. 3. 4の基準が満たされていれば既に10点という事になるので1番で5点以上取ればもうそれは採用しますよとするのは非常に安易ではないのかと思っておりました。ですから仮に15点以上を基準ではなくて上位3社とかそういった選定の仕方のほうが適正なのかなと見ていて感じました。それともうひとつ、先ほど認定に対してマークが必要だと〇〇委員の御発言がありましたが、そのほかにも市のHPで出すというお話をされていましたが、どれだけPRするか告知させるか非常に重要なところだと思いますのでこの部分はもっと工夫があってしかりかなと思います。エイトベースなりビジットもありますし色々な所で露出されるような工夫をしていくべきで

	<p>はないかなと思いました。以上でございます。いくつか御質問を申し上げましたのでお答えいただければと思います。</p>
--	--

<p>事務局</p>	<p>水産事務所 ○○と申します。○○座長からいただいたいくつかの御質問に順次答えていきたいと思えます。製造支援事業補助金の水産加工業者、漁協等の中には料亭等が入るのかという所ですが、まだそこを判断しておらず検討材料、検討項目だなどと思っております。幅広に捉えるのであれば対象にしたほうがいいでしょうし、趣旨が違うとなれば対象外に、まだ最終判断はしておりません。すみません事務局の中で決めさせてください。後既存商品ではないというのは、市場にあるからという事ではなくてメーカーさんなどを主なターゲットとしておりますので、自社製品で新しいものですという位置づけであれば既存商品ではないと現在は考えております。○○さんからも出ておりましたが、ブランドの採点の方法が 50 点中の 25 点、ちょっと低すぎないかという意見があったのと同じで、事業の採用をするにあたって 30 点満点で 15 点というと全部普通であれば認証、普通が 14 点で、漁船、水揚場所、加工場の衛生管理レベルのどれかを 1 点取ってれば対象になると、ここも低いのではないかという意見だと思えます。まだ今具体的に数値を事務局の方としては、どこまで上げられるのかというのは無いので、考えさせていただいてもいいでしょうか。</p>
------------	---

<p>○○座長</p>	<p>基本的に、先ほど認定に関しては何点以上でもいいと思うのですが、こちらの支援事業に関しては予算が決まっていますし上位 3 位でもよろしいのかなと単純に思っておりました。</p>
-------------	--

<p>事務局</p>	<p>実は 3 社を超えたら、補正もありだと思っておりました。4 社目、5 社目もぜひという意欲があって、この採点表に従って、今は設定が 30 点満点中の 15 点ですけど、いいものであれば予算の枠も増やしていくことも可能だと市としては考えておまして、そうなってくれば嬉しいという状況です。この事業に関しては幅広に考えて多くの方が手を挙げていただければという視点で考えるようにしていた所です。</p>
------------	--

〇〇座長	この配点は見直しをするという事でよろしいですか
------	-------------------------

事務局	<p>十分可能ですので、会議で皆さんにお示して決めるというのは皆さんのスケジュール的にも難しい部分があると思うので事務的な通知で、このように修正しましたというお知らせを承認していただければ、事務局で考えて皆さんにもまた個別に連絡をして方向性を決めていくのが今の所最善の策かと思っております。具体的に言えば 30 点中の何点がいいのではないかとかいうざっくりとしたラインを出していただけるのであれば、今日ここで決めればすごくスムーズであるというのがあります。</p>
-----	--

〇〇座長	<p>先程言いましたように 2. 3. 4 は固定ですよ。という事はそこで点数を取ってその船が獲ってという事が満たされていれば、もう 15 点のうちの 10 点がここでゲットできるという事で残り 5 点を 1 番の項目で稼ぐというのはあまりにも安易すぎるのではないかとこの事ですので、もう少し 1 の部分の配点を増やしてはいかがかなと思いますね。もしくは本当にその合格点数をもっと上げるとかですね。</p>
------	---

事務局	<p>はい、配点ですね。配点の 1 の将来性のある加工品事業となっているかというのを 20 点配点の普通の 14 点をもう少し下げる工夫もあるということ、20 点を下げるということですか。</p>
-----	--

〇〇座長	ごめんなさい。少し勘違いをしました。それぞれ 20 点ですか。
------	---------------------------------

事務局	いえ、そうではなくて。
-----	-------------

〇〇座長	あくまでもですか。
------	-----------

事務局	はい、斬新性・見た目・簡便性・素材のトータルで。
-----	--------------------------

〇〇座長	トータルでという事ですか。
------	---------------

事務局	はい、トータルで当初5点ずつの4項目で20点という考え方があったのですが、それだと細分化しすぎているという御意見もあり、この4項目でトータル20点、不十分である0～5点の点数配分を変更するのは可能です。
-----	---

〇〇座長	少し、1番の配点を増やしていただきたい、もしくは合格基準を上げていただくことでお願いしたいと思います。
------	---

事務局	はい、分かりました。
-----	------------

〇〇座長	後、自分では何を言ったかを覚えていないのですが以上でしたか。
------	--------------------------------

事務局	後はPRの仕方。HP等という説明をさせていただきましたが、PRの場をもっと増やしていくというお話で、エイトベースとかビジットさんの協力を得るとかメディアに露出する機会を増やしていく方向性で考えてくださいという御意見等々出ております。
-----	--

〇〇座長	あともう一つですね。この製造支援事業で製造支援補助を受けた物が自動的に認定されるという事はないですね。
------	---

事務局	はい、それはないですね。
-----	--------------

〇〇座長	確認したかったので。
------	------------

事務局	はい、それはないです。最終製品を評価するという考えでございました。
-----	-----------------------------------

〇〇座長	はい、以上色々御意見をいただきました。何か追加でありますか。はい、〇〇委員お願いします。
------	--

〇〇委員	どこでお伺いするかという所がこういう制度で一番悩ましい所で、厳しくする
------	-------------------------------------

とみんな出してもらえないのでは、あるいは甘くするとそんな制度でどうするのだと言われる。このテクニックなのですが、ともかく外に対しては非常に明確な制度だという事で新聞報道機関に徹底的にPRする。よろしくお願いします。その時の口調で、半分の点数以上で等と言ってしまうと安易そうだと、みんな合格するのだと言われてしまう。あとは合格ラインの所なんのですが、できればこの優れているところの部分まで押し上げていただいて、要するに普通ではなくてもう少し上の方で、要はすべて優れていなかったら認定できないという事にしておいていただいて、後は審査員の方にこの点数でなければ落ちますよということをお願いしてもらえれば見ている方が点数を意識して見るので。必ずこういう制度の資料は回収しろとか見せてくれと言われるのですが、その時にラインが甘いなという印象は避けた方がいい。ある程度高めの方に設定して審査員がこれ以上下げたら落ちるといふ所が分かっているならばその点数を意識して多分みなさん見てくれるので、そのような仕方がベストではないかと思えます。長野県のワインの認証制度の時も普通だと落ちます。全部ある程度いい所がないと合格しないというスタンスになっていて、委員はその合格ラインの点数を意識して点数をつけていくので、本当におかしい物は落ちますが、それなりに仕上がっているものは大体合格はしている。ただそれも外部に向かっては大変厳格な厳しい制度なのだということを徹底的にPRすると買われる方も、それから認証をする方もとても誇らしい。誰でも通るのだという印象だけは避けるようにしていただいて、県の方あるいは市の方に対してこれについて意見を求められる時も、統一してこれは非常に厳格な優れた制度なのだ徹底していただければと思います。

〇〇座長 はい、ありがとうございます。ほかに御意見はございますか。〇〇委員にちょっと質問ですけど、海外向けと出した時に味付け、好みというのは確実に変わりますか。

〇〇委員 確実に変わります。

〇〇座長 という事は商品として別物になっちゃうということでしょうか。

〇〇委員	<p>そこは非常に難しいと思っております、これは今の所3社しか選ばれないとなると、偏ってもいけないし、75万の補助対象は国内に向けたものなのか、それとも海外に向けたものなのか、おそらく若年層の業者さんは海外を見ている可能性も高いと思います。インバウンドの方々がどこに行くかという見た目の斬新さです。企画として実は九州の方で仕掛けたものがあって、そこには伝統工芸でしたり（和紙、ほうき）だったりそういう物に補助金を入れると、統計的にみると25社手を打った中のだいたい20社の経営者さんが40歳以下どこにフォーカスするのかだと思っていて、おそらく海外で公募する人って全く別の商品、国内でこれ大丈夫かなとか。よく〇〇委員がおっしゃるのが例えばお酒で言ったらアミノ酸が高いとか、日本酒度がものすごく低いとかいうのは海外です。特に極端なことを言えば東南アジアって西洋の文化が非常に根付いているのでワインでいったら日本国内賞味と海外賞味と味わって全く違います。なので、そうなるとおそらく塩分、糖分の問題でシンガポールではサバに基づいたものというのは違ってくる。例えば加工品でシメサバなんか作ったらアウトです。何でかという色々な所で試したのですがシメサバがはまる国って一つも無いです。なので僕もそうですが、シメサバを作るとみんなこれは何かなになってしまうので、公募の仕方を、見直した方がいいかもしれないです。国内の物2つ、海外の物1つ合計3社とすると、おそらく経営者さんのばらつきも抑えられると思います。すみません事務局の仕事が増やす方法を考えています。</p>
------	--

〇〇座長	<p>ありがとうございます。という事でその辺の御検討というか、これはもう今回は国内向けオンリーにして、もうちょっと別に今度は海外向けの支援制度とか、また認定制度があってもいいという所でしょうか。どうでしょうか。</p>
------	---

〇〇委員	<p>恐らくアフターコロナはインバウンドです。日本ですからインバウンドという一生懸命計画書を書くと思いますが、僕が感じるのは国内に向けると、やはり老舗の企業が強いのですが、斬新性であればこれから海外に打って出ようとかそのために会社を立ち上げようかという八戸の若年層も多いと思います。そういう方々は面白いですし更にそのような会社は絶対アドバイザーが必要です。老舗の企業さんからさすがにそれは斬新すぎるでしょとか、味付けだったりとか、僕が</p>
------	---

	<p>感じる経営者の30代、40代って非常に素直な人が多いですね。どうでしょうか、僕もそうですが今インターネットの社会なのでインターネットで全部調べて認証制度を勉強したり、直接ハードルは高いと思われている、例えば八戸市に直接電話して、今作っている加工品のアドバイザーをしていただきたいのですが等、色々な斬新な問い合わせが増えてくると思いますので、偏らないという意味ではいいと思います。</p>
--	--

〇〇座長	<p>はい、ありがとうございます。事務局から何か御発言ありますか。</p>
------	---------------------------------------

事務局	<p>貴重なお話ありがとうございます。そういった視点も今は取り組むにはハードルが高いかもしれませんが、もっとこの制度を運用していったりより良いものにプラスアップする時に取り入れたいなと思っております。</p>
-----	--

〇〇座長	<p>よろしくお祈いします。他、何か御意見御質問はございますか。無いようでしたら、先ほど御説明がありました次回の会議では、試作品の補助金についての審議があるとのことですので、委員の皆さまよろしくお祈いします。</p> <p>せつかくの機会ですので、オブザーバーで御出席の〇〇様から御意見をいただきたいと思ひます。</p>
------	--

〇〇 (〇〇)	<p>〇〇で〇〇をしております〇〇と申します。本日はこのような貴重な会議に参加させていただいてありがとうございます。非常に弊社も、東北の産地商品を色々開発して販売していくというようなところを強化してやっている所なのですが、やはりサバというとなサバの缶詰、サバの塩焼き、シメサバもうこれにほとんど限られてしまっていて、いろんなメーカーさんとお話をしてもなかなかそれ以上の商品というのは出てこない。少し味が違ふとか風味を変えるとかパッケージを少し変えるとかというような商品が多い中でこの八戸市のブランドはどのように作られているのかという所は、私としても非常に興味がありますし色々な認証制度もございますので、そういった所に負けないような商品が生み出されるような認証制度になることを非常に期待しております。私も今回携われる事、参加させていただいて、みなさんの御意見、普段聞けないような御意見を伺って非常に参</p>
------------	---

	考になりましたので、私の仕事にも活かしていけると考えております。
--	----------------------------------

〇〇座長	ありがとうございます。それでは以上で予定していた議事については終了となります。進行を事務局にお返ししたいと思います。
------	--

事務局	それでは以上をもちまして、本日の八戸市水産物ブランド戦略会議を閉会させていただきます。次回は7月29日を予定しておりますので、委員の皆さまには御予定を確保していただければと思います。よろしくお願いいたします。それでは委員の皆さまには御多忙中、御出席いただき誠にありがとうございました。お疲れ様でした。
-----	--